

実施済み	○
一部実施	△
未実施	×

重点施策関連項目  
縮小・見直し

No	施策	実績	評価	新計画での方向性（事務局案）
<b>1. 発生抑制施策</b>				
1-①	食べ残し等の発生抑制の啓発（「買すぎない、つくろすぎない、食べ残さない」の3ない運動等）	・H29年度から「3010運動+」の啓発に取り組んでおり、広報くさつ、ホームページ、イベント時の啓発（ごみ問題を考える草津市民会議と連携）および事業所訪問による啓発（H29:57回、H30:72回）を行っています。 ・出前講座にて、食品ロスの現状や「3010運動+」について紹介を行っています。（H29:2回・76回、H30:3回・47人） ・H30年度から、クリーンセンターでのワークショップで食品ロス講座を実施しています。（H30:6回、合計154人）	○	「食品ロスの削減の推進に関する法律（食品ロス削減推進法）」の趣旨に基づき、食べ残し等の発生抑制の啓発を行います。また、滋賀県が策定予定の「食品ロス削減計画」の内容を本計画にも今後反映していきます。
1-②	マイバックの普及促進、過剰包装の拒否の啓発	・「滋賀県買物ごみ・食品ロス削減推進協議会（旧 買物ごみ減量推進フォーラムしが）」に参画し、ホームページやごみ問題を考える草津市民会議と連携し、環境にやさしい買物キャンペーン（毎年2～3事業所）で啓発を行っています。 ・出前講座にてマイバック持参や過剰包装の拒否の啓発を行っています。	○	ごみ問題を考える草津市民会議および滋賀県買物ごみ・食品ロス削減推進協議会と連携し、マイバック、マイボトル等の普及促進の啓発を進めます。
1-③	環境配慮物品等の使用促進、使い捨て商品の使用抑制の啓発	・広報くさつ、ホームページ、ごみジャーナルにおいて啓発を行っています。 ・出前講座にて、リサイクル製品の購入や、リユースショップ、フリーマーケット利用の呼びかけを行っています。	○	広報くさつ、ホームページ、各種イベントでの出展、出前講座等を活用し、啓発を行います。
1-④	市民団体との協働による発生抑制運動の展開（市民団体への支援）	ごみ問題を考える草津市民会議との協働により、各種事業を実施しています。 ・「ポイ捨て防止市民行動の日」の実施（H30参加者21名） ・親子を対象とした「見て・聞いて・体験パスツアー」（H30参加者12人） ・リサイクルフェア（H30参加者1,600人） ・広報紙「ごみジャーナル」発行（年間2回） ・市内散在性ごみ一斉清掃の実施（H30参加団体154団体者1,600人） ・各学区ふれあいまつり、こども環境会議、イオロフェスタへの出展	○	ごみ問題を考える草津市民会議と連携・協働するとともに、同団体を含めた発生抑制運動の展開を行う市民団体を支援します。
1-⑤	ごみに関する情報提供（減量効果・リサイクルの状況・ごみ処理コスト等の情報提供、広報媒体によるPR）	・広報くさつ、ホームページ、ごみジャーナル、ごみ分別アプリ、イベント等を通じて、ごみに関する情報提供を行っています。 ・草津市のごみ状況を毎年公表しています。	○	市民に分かりやすいごみに関する情報の提供を行います。
1-⑥	教育機関と連携した環境教育の推進、ごみの出前講座の推進	・市内14校の小学4年生を対象にクリーンセンターの施設見学を受け入れています。（H29:14校・1,434人、H30:14校・1,422人） ・地域等の要望に応じて出前講座を実施しています。（H29:2回・47人、H30:3回・76人）	△	環境教育を推進するとともに、出前講座についても内容の充実を図ります。
1-⑦	新クリーンセンターでの循環型社会や環境問題に係る啓発、学習機会の提供【追加】	・環境学習の拠点としてくさつエコスタイルプラザを設置し、各種事業を実施しています。 イオロフェスタ（H30:4回・参加者675人）などのイベントによる啓発、ワークショップ（毎月）、リサイクルフェア（年1回）の開催など。	○	プラスチック問題、食品ロス、2R等のごみ問題を取り巻く課題を意識した学習機会を提供します。
<b>2. 減量化（排出抑制）施策</b>				
2-①	ごみ処理の有料化（指定ごみ袋による単純従量制の導入）の検討	ごみ処理の有料化について情報収集を行っています。	×	市民アンケートの結果を踏まえつつ、既に有料化を行った県内他市等の事例を参考にしながら、ごみの排出量や計画の目標数値を考慮し検討します。
2-②	生ごみの水切り励行推進の啓発（「ひとしぼり」運動）	「ごみ分別ブック」に、生ごみの水切りについて記載するなど、周知啓発しています。	○	食品ロス削減のための施策と関連付けて周知啓発します。
2-③	生ごみ処理容器、コンポストの普及促進	・生ごみ処理容器購入費補助金の交付を行っています。（H29:30件、H30:28件） ・「ごみ問題を考える草津市民会議」との協働により、段ボールコンポスト講座の開催による普及啓発を行っています。（H29:2回・41人、H30:1回・17人） ・段ボールコンポストの販売を行っています。（H29:160個、H30:100個）	○	食品ロス削減のための施策と関連付けて周知啓発します。
2-④	生ごみ堆肥化システムの構築の検討	段ボールコンポストの普及啓発に取り組んでいる段階であり、堆肥化システムの構築は未検討です。	×	食品ロス削減（発生抑制）を優先するため、新計画には反映しませんが、堆肥化施策として段ボールコンポストの普及啓発を進めます。（2-③）
2-⑤	市民農園や学校農園での堆肥利用による循環の環（わ）づくりの検討	段ボールコンポストの普及啓発に取り組んでいる段階であり、循環の環づくりについては未検討です。	×	食品ロス削減（発生抑制）を優先するため、新計画には反映しませんが、堆肥化施策として段ボールコンポストの普及啓発を進めます。（2-③）
2-⑥	店頭回収の利用促進（食品トレー、牛乳パック、携帯電話、プリンタートナー等）	広報くさつにおいて店頭回収の啓発を行いました。	○	店舗回収が広がっているため、ホームページ等を活用し、実施店舗の紹介を行うなど、啓発の拡大を進めます。
2-⑦	リユース衣類の活用システムの構築の検討	リユースショップの増加、インターネット上での売買取手が広がっているため、未検討です。	×	衣類について、リユース店舗の紹介を行うなど、啓発の拡大を進めます。
2-⑧	リサイクル工房の創設の検討	・リユースショップ等が増えてきているため、未検討です。 ・H30年度から、搬入された木製の粗大ごみを工作講座として利用できるよう加工し、イベント等で活用しています。	×	リユース市場の拡大促進を優先的に進めるため、新計画には反映しませんが、「ものを大切に長く使う」ことに関する啓発を行っています。
2-⑨	粗大ごみの再生利用の促進	粗大ごみの再生利用の促進として、「リサイクル家具抽選会」を実施しています。（H30:6回、希望者267人、引渡数99点）	○	インターネットオークション等を通じ、粗大ごみの再生利用の促進を図ります。
2-⑩	フリーマーケットの開催、不用品交換制度の利用促進	リサイクルフェアにて、不用品を販売するフリーマーケット、おもちゃ交換会を実施しています。 ※インターネットやフリマアプリ等の影響により、近年は出展者数が減少傾向にあります。	○	リサイクルフェアのほか、市民等が開催するフリーマーケットを支援します。
2-⑪	民間リユースショップの利用促進	出前講座にて、リユースショップ、フリーマーケット利用の呼びかけを行っています。	○	リユース市場の拡大促進を優先的に進めるため、店頭回収の利用促進と併せて、周知・啓発をします。
<b>3. 資源化施策</b>				
3-①	資源物の集団回収の推進奨励	・広報くさつ、ホームページ、ごみジャーナル等を通じて、集団回収の奨励を行っています。（H29:202団体、H30:195団体） ・集団回収の拡大のため、H22年度に、資源回収活動事業推進奨励金の単価を、3円/kgから4円/kgに引上げました。	○	集団回収については、民間店舗回収の拡大にあわせて回収量も減少しているため、奨励方法等について見直します。
3-②	資源物の集団回収における繊維類の回収促進【追加】	布切れ等の繊維類も集団回収の対象として奨励金を交付しています。	○	市況の影響も踏まえつつ、集団回収における繊維類の回収を促していきます。
3-③	分別収集体制の見直しの実施（資源物収集の細分化、分別の徹底）	H23年度に古紙類やプラスチック製容器類の回収を始めました。	○	分別収集体制の見直しについて検討します。

No	施策	実績	評価	重点施策関連項目
				縮小・見直し
		実施済み 一部実施 未実施	○ △ ×	
No	施策	実績	評価	新計画での方向性（事務局案）
3-④	リサイクル推進員制度や分別指導協力員制度の導入の検討	現在の分別区分（11分別）については、市民の分別に対する理解度も高まってきているため、制度導入は未検討です。	×	新計画には反映しませんが、分別の簡素化等により、分別区分を分かりやすくします。
3-⑤	ごみ出しの早期分別指導の実施	H23年度の分別区分変更に伴い、ごみ集積所の分別状況の点検と指導を実施しました。	○	分別が不十分な集積所に対して、町内会等の管理者と連携し分別啓発を行います。
3-⑥	ごみ処理施設の見学研修の実施	クリーンセンターの施設見学を随時受け入れています。（H30:129団体・3,480人）	○	ごみ処理施設の見学研修を実施・充実します。
3-⑦	環境イベント等によるリサイクル意識向上の啓発	・リサイクルフェアをごみ問題を考える草津市民会議との協働で開催しています。（H29参加者:1,500人、H30参加者:1,600人） ・H30年度から、クリーンセンター内での啓発イベントとして、イオロフェスタを実施しています。（H30:4回・参加者675人） ・宿場まつり、各学区ふれあいまつり等において、啓発活動を実施しています。	○	クリーンセンターでの各種イベントを実施し、2R意識向上に向けて啓発します。
3-⑧	資源物拠点回収場所の拡充	スーパー、家電量販店等による店頭回収が増えてきているため、拠点の拡充は未検討です。	×	店舗回収の拡大促進およびクリーンセンター等公共施設を拠点とする資源物回収について検討します。
3-⑨	剪定枝資源化システムの構築の検討（チップ化による堆肥化等）	H26年度からH29年度の間、電気式剪定枝粉碎機の貸出を行いました。貸出数の伸び悩み、機器の耐用年数の経過により、H30年度に事業を廃止しました。（H28:30件、H29:16件）	△	貸出数の伸び悩みと機器の耐用年数の経過により事業は廃止とします。
3-⑩	雑紙保管袋の検討〔追加〕	・H28年度から、雑紙保管袋を作成し、配付しています。 ・H29年度から、雑誌・雑紙の資源化向上に向けて、「雑誌・雑紙分別辞典」を作成し、配付しています。（H30年度は全戸配付）	○	効果が十分ではなく、新計画に反映しませんが、古封筒等を使った雑紙分別について啓発します。
3-⑪	スマートフォン用ごみ分別の無料アプリケーション導入の検討〔追加〕	H28年度から、ごみ分別アプリを導入しています。（ダウンロード数/世帯数=19.23% 令和元年10月時点）	○	市民に分かりやすい分別方法等を周知啓発するために活用・充実します。